

令和6年度
発生予察情報

特殊報第1号

令和6年10月18日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-539-0661)

トマトキバガの誘殺について

県内に設置した性フェロモントラップにおいて、本種と疑われる成虫が誘殺された。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、県内未発生のトマトキバガであると確認された。

* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念される場合に発表するものです。

1 害虫名 トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2 対象作物 ー

3 誘殺確認の経緯及び国内での状況

- (1) 令和6年10月2日に、県内5地点に設置したトマトキバガ侵入調査用のフェロモントラップのうち2地点において、本種と疑われる成虫が複数誘殺された（写真1）。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、本県で未発生のトマトキバガと同定された。
- (2) 県内の農作物における本種幼虫の発生及び被害は認められていない。
- (3) 本種は、国内では令和3年10月に熊本県で確認されて以降、フェロモントラップ調査等によって、関東の一部の県を除き、これまでに本県を含めて合計45都道府県で誘殺が確認されている。

4 本種の特徴及び生態

- (1) 成虫は、開張約10mm、前翅長約5mm。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色、翅頂下でえぐれる（写真2）。
- (2) 終齢幼虫の体長は約8mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯が確認できる（写真3）。
- (3) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。1年に複数世代が発生するため、繁殖力が非常に強いことが知られている。

5 被害の特徴

- (1) トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真4）。
- (2) 果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じる（写真5）。

6 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。本種と疑われる害虫や食害を発見した場合は、速やかに埼玉県病害虫防除所まで連絡する。
- (2) 被害葉や被害果等を発見した場合はほ場に放置せず、土中深くに埋めるか、ビニル袋等に入れて密封することで、成幼虫を死滅させたいうえで、適切に処分する。
- (3) 施設栽培では、出入口のほか、側窓や天窗等の開口部に防虫ネットを展張する。
- (4) トマトまたはミニトマトでは、トマトキバガに登録のある防除薬剤を使用する。なお、農薬を使用する際は必ず最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRAC コード）が異なる薬剤でローテーション散布を行う。



写真1：フェロモントラップに誘殺された雄成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ終齢幼虫



写真4 トマトの被害葉（飼育個体）



写真5 トマトの被害果（飼育個体）

(写真2～5は、農林水産省植物防疫所原図)